

チェロとDJが開発する、音の新領域

令和6年度京都市芸術文化特別奨励者・中川裕貴の最新作を京都で！

中川裕貴「弭（ゆはず）」

2024年12月28-29日
ロームシアター京都“YUHAZU”
YUKI NAKAGAWA開演 | 28日 [土] 13:00
18:00
29日 [日] 13:00

中川裕貴



公演について

チェロを主体として作曲・演奏・演出活動を行う音楽家／演奏家中川裕貴による約4年ぶりとなる新作コンサート

「弭（ゆはず）」を開催します。弭という文字は「ゆはず」と読み、弓道などで用いる弓の両端にある「弦（つる）をかける場所」のことを指します。

このコンサートはその文字通り、弓と耳という2つの側面、そしてそれに関係する「チェロ」が中心に添えられ、ヒトの声に近い成分をもつと言われる楽器から、さまざまな「声」を、「弓」が引き出し、観客の「耳」に届けます。特に中川は近年、下記に記載するような自作の弓を使用した演奏を数多く行っており、このコンサートではその弓が主体的な役割を果たすことになるでしょう。

また今回のコンサートでは新たな試みとして、会場に「DJ（ディスクジョッキー）」がいます。

録音物を収集、吟味、推敲し、混ぜ合わせ、再構築し、ターンテーブルとCDJを複数台掛け合わせて複雑なサウンドカラーージュを目指す「1729」は、DJの中でも異端かつ、誰もが説明に困る奇妙で曖昧な存在であるかもしれません。彼女は2022年まで”威力”名義で活動し、現在はクラブシーンのみならず、YCAM（山口情報芸術センター）や九州大学音響特殊棟などに活動の幅を広げ、「聴く」ことの根源的な領域にアクセスするようなパフォーマンスを行っています。

今回はこのDJとチェロという「両端」によって、何かを「かけ」ます。

さらに中川のコンサートにこれまでも数多く出演し、演奏やパフォーマンス、そして意味の「下限」を浮き沈みさせるような「行為」を続けてきた出村弘美、穂月萌も参加。この4人の持つ要素が絡み合いながら生まれる時間と空間は、タイトルである「弭（ゆはず）」という音をズラした「いわず」と、そこから派生する「静寂（サイレンス）」の現在進行形の「かたち」が提示されると同時に、私たちが生きるこの時代のありさまが照らされることになるでしょう。

「弭」という文字について、言葉遊びをしてみます。

弭、ゆはず、You haze (訳すと「あなたが霞んでいる」という意味)。

「ゆはず」→「ゆわず」→言わず = (I/You/We/They) don't say.

そして「言わないこと」は静寂(サイレンス)と関係があります。

弓や耳、そして声。言わないこと。サイレンス。行動すること。

意志があること/ないこと。リスニング、トーキング、シンキング。

そしてそこに無音や中断が差し挟まれること。ゆはずは「弦(つる)をかける場所」を指します。

「弭」という文字から生まれるイメージを、「コンサート(Concert)」という、そのことばの一部に「共に」「子孫」「対抗」という意味を持つイベントへ運ぼうとしています。

約4年前のロームシアター京都でのコンサートでは、わたしたちのほとんどは「マスク」と呼ばれるものを「耳」にかけていました。

それから月日が経ち、今、私たちの耳は、なにを「かけて(掛けて、賭けて、欠けて…)」、ここにいるのでしょうか。

このコンサートでは、今、ここから未来に向かって延びる、とある「疎密」をコンサート会場に集まるみなさんと共に創りたいと考えています。

中川 裕貴

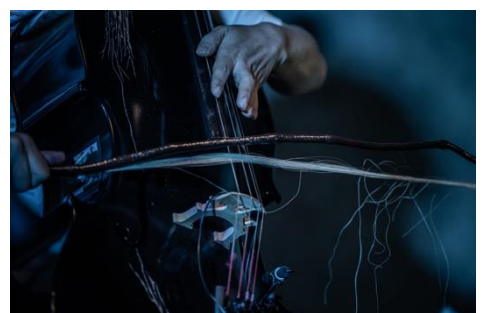
作曲、演奏、演出、出演

中川裕貴(なかがわ・ゆうき)

1986年生まれ、三重/京都在住の音楽家。チェロを独学で学び、そこから独自の作曲、演奏活動を行う。人間の「声」に最も近いとも言われる「チェロ」という楽器を使用しながら、同時にチェロを打楽器のように使用する特殊奏法や自作の弓を使用した演奏を行う。音楽以外の表現形式との交流も長く、様々な団体やアーティスト(烏丸ストロークロック、森村泰昌、渡邊尚など)への音楽提供や共同パフォーマンスも継続して行っている。また2022年からは音楽家・日野浩志郎とのDUOプロジェクト「KAKUHAN」がスタートしている。

近年のコンサート作品として、「ここでひくことについて(2019)」@京都芸術センター、「アウト、セーフ、フレーム(2020)」@ロームシアター京都サウスホール(ロームシアター京都×京都芸術センター U35 創造支援プログラム“KIPPU”)などがある。

同志社大学工学部情報システムデザイン学科卒業。京都市立芸術大学大学院音楽研究科修了(音楽学)。令和6年度京都市芸術文化特別奨励者。



出演



出村弘美（でむら・ひろみ）

俳優、声、他。

1985年大阪府生まれ。京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科卒業。在学中、ダンス・演劇に出会う。その後、インタビューや日々の生活をもとに創作した作品など、様々な団体の舞台出演を経験。映画出演作に濱口竜介監督『ハッピーアワー』、野原位監督『三度目の、正直』がある。近年はナレーションや、朗読・録音を用いた創作をする。「中川裕貴、バンド」メンバー。



穂月萌（あきづき・もえ）

京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科卒業。大学卒業後、神社で巫女として5年間働きました。現在はDTP/WEBデザイナーをしています。最近ひよんなことからアンティーク着物に出会い、アンティーク着物を集めています。そういえば私はこれまで古いものに心惹かれてきました。古い着物や古い建物のデザインのかっこよさにも魅力を感じますが、長い長い時間の続きに、いま私も交わっていると思うと胸がキュンとします。

出演・DJ



1729

1729 = 7 × 13 × 19

Instagram: [@soonover1729](https://www.instagram.com/soonover1729)

スタッフ：

舞台監督：北方こだち

音響：甲田徹

照明：十河陽平

宣伝美術：古谷野慶輔

制作：平野春菜

公演概要

公演名：中川裕貴「弭（ゆはず）」

作曲、演奏、演出：中川裕貴

DJ：1729 出演：中川裕貴、出村弘美、穂月萌、1729

日程：2024年 12月28日（土）13:00

12月28日（土）18:00☆

12月29日（日）13:00★

☆終演後に中川裕貴とゲストによるトークイベントを実施予定

★託児サービスあり（要事前予約）。詳細・お申込みは中川裕貴 WEB サイト www.yukinakagawa.info にてご確認ください。

◎受付開始は開演の1時間前、開場は30分前

◎車椅子でご来場の方は、メールにてご連絡ください。

会場：ロームシアター京都 ノースホール（〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13）

上演時間：約100分（予定）

チケット料金（全席自由・税込）： 早割 3,000円★ | 一般 3,500円 | U25 2,500円

★早割は12月7日（土）23:59まで。グッズ付き早割チケットはPeatixのみで限定販売（数量限定、先着順）。

※当日券は500円増、未就学児入場不可

※U25のチケットをご購入の方は、当日受付にて身分証のご提示をお願いします。

プレイガイド：

Peatix：<https://yukinakagawa-yuhazu.peatix.com>

ロームシアター京都チケットカウンター：

【営業時間 10:00-17:00】年中無休（臨時休館日を除く）TEL：075-746-3201

京都コンサートホールチケットカウンター：

【営業時間 10:00-17:00】第1・3月曜日休館

※休日の場合は翌日 [TEL:075-711-3231](tel:075-711-3231)

オンラインチケット

[24時間購入可] ※要事前登録（無料）<https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>

お問い合わせ：中川裕貴 E-mail: yukinakagawa.band@gmail.com

主催：中川裕貴

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

京都芸術センター制作支援事業